

# しのぶ草



平成 25 年 6 月 18 日 発行

発行：宮崎市きよたけ歴史館

所在地：宮崎市清武町加納甲 3378-1

TEL 0985-84-0234

FAX 0985-84-2634

## 《講座始まる》

当館では、平成 25 年度も、「きよたけ歴史講座」、「宮崎の縄文講座」、「宮崎三計塾」の三つの講座を計画していますが、5 月 11 日(土)の「きよたけ歴史講座」を皮切りに、講座が始まりました。多くの受講生の参加を得て大変ありがたく思っています。今後更に多くの方々に受講していただくことを願っています。講座予定は、市広報「みやざき」、「月報きよたけ」等々で広報されます。お気軽にどうぞ。

## 《安井息軒旧宅清掃》

5 月 18 日(土)に、安井息軒旧宅愛護会の皆様、敷地内の清掃や草刈をしてくださいました。この愛護会は平成 23 年 4 月に結成され、これまで旧宅や敷地



内の清掃や草刈などを続けてこられており、平成 25 年度は 8 回の活動を計画しておられます。敷地内が大変きれいになり、来館者の方々も気持ちよく見学していただけることと思っています。誠にありがとうございました。

## 《来館者のご紹介》



5 月 21 日(火)に、<sup>③</sup>鈴会の方々 9 名が来館されました。同会は民間企業の OB 会で、地域の歴史等について日頃から勉強されているグループです。今回は安井息軒先

生の功績などについて、熱心に説明を聴いていただきました。当館からの説明後、皆様から様々なご質問を受けました。その学習意欲の旺盛さに大変感心させられた次第です。

### ★ 講座のご案内 ★

#### ◇ 「きよたけ歴史講座」③

日時：平成 25 年 7 月 6 日(土) 午前 10 時～正午  
場所：きよたけ歴史館 (研修室)

#### ◇ 「宮崎の縄文講座」②

日時：平成 25 年 7 月 20 日(土) 午前 10 時～正午  
場所：きよたけ歴史館 (研修室)

#### ◇ 「宮崎三計塾」②

日時：平成 25 年 7 月 28 日(日) 午前 10 時～正午  
場所：きよたけ歴史館 (研修室)

※ 当日も受け付けています。お気軽にお越しください。

## 《日向路“介さん”道中記⑥》

「八月朔日、天晴、おととい雨ゆえ、所々、洪水、昼過ぎ立つ、都於郡より、俱利伽羅川まで一里半、此迄、式部殿領」

都於郡の名刹黒貫寺めいさつくろめきでらでの史料調査を終えた介さん一行は、八月一日昼過ぎ、北へと出発した。米良街道をとおり、右松村(現西都市右松)から東へ分岐する高城往還へと歩をすすめた一行は、都於郡から一里半にある俱利伽羅川くりからに至った。この俱利伽羅川とは、現在の一ツ瀬川である。当時の往還は“祇園渡”によって結ばれており、通常船一艘にて旅人を対岸へと運んでいたが、この日は昨日来の台風の影響からいつもより水かさが増していたとみえ、川を挟んだ双方から渡し船が出ている。

俱利伽羅川を渡ると高鍋藩である。一行は今でもわずかに古道が残る高城往還を北へと進み、祇園原、茶臼原、椎木を経て高城(現木城町高城)へ到着した。高城は高鍋藩の宿場町で、元和二年(1616)に造立されている。町は南北に通る往還をはさんで長く町割がなされ、なかには役所兼迎賓館である「御仮屋」おかりやや宿屋、寺屋敷など 150 軒ほどの町屋が建ち並んでいた。又、この町は、東目ひがしめと呼ばれる日向国を通る鹿児島藩の参勤交代の宿場でもあり、300～500 人規模の旅団も受け入れていた。この日一行はこの地に宿をとり、高鍋城からは「何なりと申し付けるように」との使者も彼らのもとを訪れている。しかし、残念なことに、彼らが旅の疲れを癒した宿については今のところ確認されていない。

町の北西には、中世において新納院にいらいん支配の核をなす城であった“新納院高城”がある。この古城は、天正 6 年(1578)に大友氏と島津氏が日向国の覇権を争った耳川の合戦や、天正 15 年(1587)の豊臣秀吉による九州征伐などにおいて極めて重要な拠点となった。一行が高城を旅する約 70 年前には、戦国末期の日向国を代表するこの城も廃城となり、彼らにとって太平の世も次第に慣れたものとなっていたのだろうが、そこは武士、数多の先達の魂眠る特別な場所を望み、各々さまざまな想いを馳せていたにちがいない。

「二日、高城より名抜川とて、舟渡し有り、津野まで四里、津野より耳津まで三里」  
鶴戸神宮から北郷へとむかって以来久しぶりの日向灘... 潮の香りはまもなくである。

(文責 井田)